

吹田の郷

発行/NPO 法人すいた市民環境会議 会長/小田忠文 ホームページ<http://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目8-28-106 中村小夜子 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491 編集/会報委員会
年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 郵便振込口座番号/00980-3-28845



目次

1. 表紙「肥後守(ひごのかみ)」
2. 会長コラムと表紙の絵説明
3. 自然エネルギーすいた(S&ES)ニュース
 - ・古江台中学校市民共同発電所 報告
 - ・吹田ぷくぷく市民共同発電所 報告
4. 生きもの委員会ニュース
 - ・津雲台住宅地でクゲヌマラン群生地
 - ・山田北コーナン東側水路でガマ3种群生
6. 生活環境委員会ニュース
 - ・環境会議のエコクッキング③
 - ・夏休み 森のクラフト 於：浜屋敷
8. 和歌山県田辺市 天神崎を訪ねて
～日本ナショナル・トラスト発祥の地～
9. 雑記；奮起一番
日本南画院展 応募報告
10. 知床あれこれ
4年ぶりの知床自然教室
12. 関連イベントのお知らせ
事務局よりお知らせ 寄付御礼
イベント案内 “地球沸騰化時代 到来！”
 - ・映画「原発を止めた裁判長」上映会
 - ・すいたクールアースウィーク
 - ・すいたムーンライトコンサート

春夏秋冬

会長 小田忠文

「夏は暑いのだ」といっても毎年そのレベルが上っているように感じるのは私だけではないでしょう。今年は七夕の翌日の7月8日に大阪の最低気温が25度を超えました。最低気温が25度を超えた日を熱帯夜といいます。その後7月はほぼ毎日が最低気温が25℃以上で合計20日間が熱帯夜でした。8月に入ってからは毎日が熱帯夜で台風7号が近づいたお盆の8月15日でも最低気温は25.2℃ありました。単に暑いだけでも健康被害があるのに線状降水帯や竜巻も伴い恐ろしいのですが、マウイ島やカナダ、スペインなどで起きている山火事も温暖化の影響によるとのことで恐ろしいです。▲この暑さでは氷河も永久凍土も溶けるだろうなと思っていたら8月5日の新聞に「シベリアの永久凍土で4万6千年間、仮死状態で過ごしたとみられる線虫が動き出した」という記事がありました。約30万～20万年前に人類(ホモ・サピエンス)が誕生し、アフリカを出たとされるのが5万年前からといわれているので、まさにそのような遠い時代から眠っていた線虫が覚醒したのです。▲線虫は細菌やウイルスよりはるかに高等動物で雌雄があり両性生殖が基本の生き物です。研究者は「仮死状態になるのに必要な遺伝子をすべて特定するには、さらに多くの調査が必要で、ヒトの細胞に使う目標はまだかなり遠い」と指摘していますが、宇宙旅行に使えるようなノウハウを秘めているそうです。線虫といえば最近自覚症

状のない早期がんの発見に一役買っていて注目されています。線虫は種類が多く現在20,000種が確認されていますが今回よみがえった線虫は新種だそうです。▲この記事に誘われて調べていくと2014年には東シベリアの深さ30mで氷点下13.4度の永久凍土から3万年前に地球上で生息していたとされる未知のウイルスが発見され、その蘇生に成功したとフランス国立科学研究センターが論文を発表しました。モリウイルスと名付けられたこのウイルスはヒトには感染しませんがアメーバに感染し、12時間で1000倍に増殖すると言われています。この増殖能力のすごさは脅威的で恐ろしさを感じます。▲永久凍土では微生物も眠っていました。2016年シベリアで永久凍土に埋められていた75年前のシカの死体を掘り起こしたところ炭疽菌が生き延びており、12歳の少年が炭疽菌による感染症で死亡したそうです。さらに少なくとも20人が炭疽症と診断され、2300頭を超えるトナカイが炭疽症で死んだというニュースがありました。▲一方、土壌中の細菌といえば2015年にノーベル賞をもらった大村 智さんは1974年、静岡県の土壌から新種の放線菌を発見し、これが抗寄生虫薬イベルメクチンとなって熱帯地方の寄生虫感染症の治療薬として多くの人を熱帯病による失明から救ったと言われるように、ごくまれに人類に役立つ微生物が見つかるかもしれません。しかし後戻りできなくなった温暖化は世界中の永久凍土を溶かすことで、CO2の25倍の温室効果を持つメタンガスを大気中に拡散するのみならず人類にとって未知の微生物を覚醒させる、おそろしいストーリーを秘めているようです。

<表紙の絵>

思い出の原風景シリーズ(18)

「肥後守(ひごのかみ)」

子供のころに、欲しくてならないモノの一つに、ナイフの「肥後守」があった。母親に「朝寝坊はしません」、「宿題も忘れずにします」などと約束して買ってもらい、嬉しかったことが忘れられない。学校では鉛筆を削り、遊びでは、木の小枝を削って「チャンバラごっこ」の「刀剣」を作るなど、子供の生活になくてはならない道具であり、また、少年時代の「ステイタス・シンボル」的存在としても欲しかった。

「肥後守」と云えば「ナイフ」の商品名より「侍社会」の官位を連想するが、明治時代の中頃、兵庫県の住人が鹿児島県から持ち帰った「刃物」を、「刃」と「柄」を折りたためるように改良し「肥後守」の形にして「熊本県」などで、売り出したのが、その名の由来であると云う。

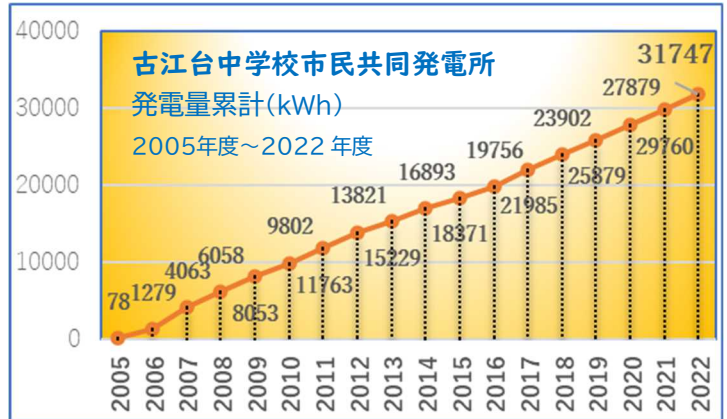
(表紙の絵と文:生きもの委員 塩田 敏治)



古江台中学校市民共同発電所 報告

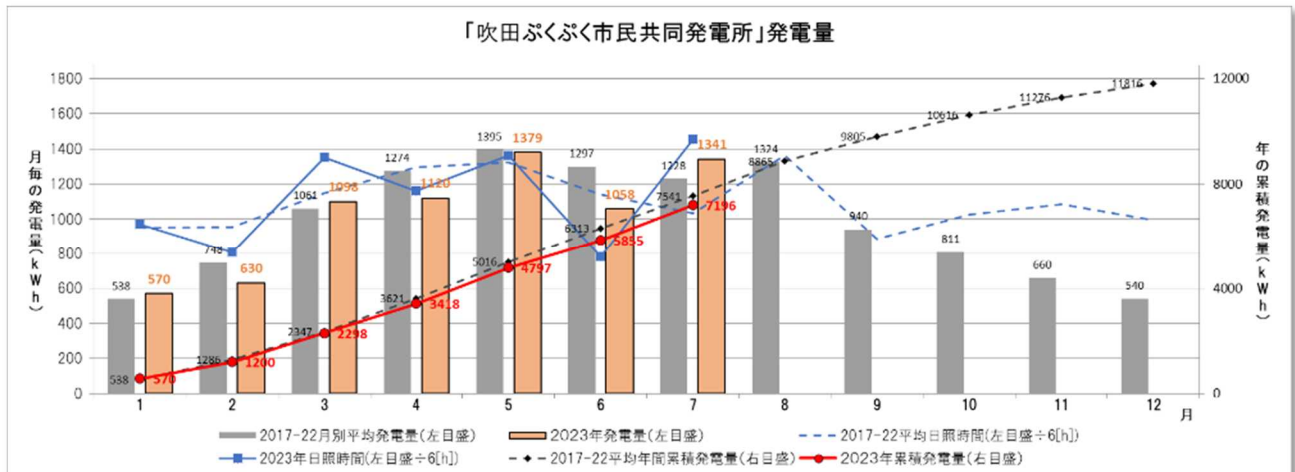
今回は、2006年2月に点灯した古江台中学校市民共同発電所の報告です。これは、吹田市で初めて市民が共同して作ったソーラー発電所。2kWのシステムですが、当会のほか、古江台中学校、PTA、ディオス北千里専門店会、地域団体などが共同し、多くの市民の寄付に加え、市や府から助成金を得て設置しました。

設置後17年、歴代の校長先生、教頭先生が毎月データをお送りくださっています。ありがとうございます。途中、表示機器の故障や、校舎の工事のためデータがとれないことがありましたが、今にいたるまで元気に発電を続けています。今年3月で発電量累計は31,747kWhとなりました。



▲2007年2月15日の点灯式で、小さな発電所だけれど、みんなで力を合わせてできたのがうれしかった。
 ◀現在の古中ソーラー。設置後は吹田市に寄付された。裏面には当時の生徒さんたちのメッセージが（残っているかなあ）。
 2022年度発電量は月平均164kWh。まだまだ元気です。

吹田ぶくぶく市民共同発電所の発電概況は以下の通りです。5月概況：日照時間が対平均値約103%に対して、発電量は約99%でした。6月概況：日照時間が対平均値約69%に対して、発電量は対平均値約82%でした。7月概況：日照時間が対平均値約141%に対して、発電量は対平均値約109%でした。1~7月累計で、対平均値約95%の発電量となっています。



万博公園内に数カ所のクゲヌマランの群生ないし単独の生息地があり、前号でも群生地が見つかったことを報告した。今回、6/15 に豊中市在住の方が匿名(後に明利由美子様と判明)で、環境会議 Hotmail にクゲヌマランでないかとの連絡が入った。

①津雲台クゲヌマラン群生地のきっかけ

こんにちは。私は自然が好きな豊中市に住む者です。吹田市が家から近いので、よく散策をしています。先日、こちらのサイトを知り、4月に見つけた花が、希少な『クゲヌマラン』ではないか?と思い、見ていただきたくメールさせていただきました。場所は津雲台で数株、咲いていました。



図①津雲台クゲヌマラン(4月頃 明利由美子)

図①写真(右上)が添付されており、クゲヌマランに間違いなしとわかったので、平は 6/17 に明利様とお会いし、現地を確認した。花が咲いたと思われる(種子)株は少なかったものの 10 株以上が生息していることを確認した。

②津雲台クゲヌマランの現地調査

尾方はその翌日 6/18 に現地調査、調査区(6m×8m)を設定し、全部で 18 株あること、その内 7 株については今後継続して調査できるとして、実の数・葉の数・高さ、更には、下から 1~3 番目の葉の高さ・葉の長さなど、詳細に記録を残した。(図②・図③参照)



↑ 図② 詳細な調査をした 7 株(尾方義雄)

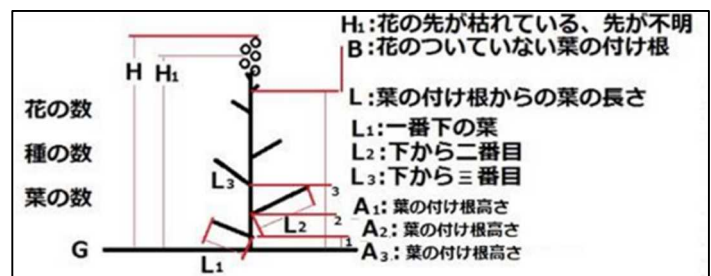
↓ 図③ 7 株の詳細調査項目(尾方義雄)

この調査結果をベースに、今後の変化を調査する予定であったが、7/26 に現地を確認した所、ニュータウン内の空き地と同様、お盆前の草刈りが実施されていて、クゲヌマランの地上部も刈られてしまいました。

このため、種取りが出来なくなりマークしたラベルも散逸したが、生息位置を記録しているので、来春の芽生え・花の咲く頃に確認したい。

③吹田市のクゲヌマラン

クゲヌマランは 2016 年 4 月に万博公園で確認した。「東の広場東斜面」の樹林には数百株生息していると推定され、絶滅の心配はなかった。その後 2019 年に「万博公園外周道路」の安全性対策面からと思われる「東の広場東斜面」の樹木伐採があり、樹林内の日陰に咲くクゲヌマランが、草原に咲く花となった。草刈り直後の 2020 年調査では、この東斜面を中心に 200 株以上確認できたが、明るくなったことでクゲヌマランより草丈の高い野草が繁茂し、年々生息株が減少し、2023 年は 20 株ほどに激減していた。それ以外に万博公園「野球場西側の樹林」に 20 株、先月報告した「梅林向かいの南東斜面」に約 30 株で、学習館近くの樹林に 1 本、その他の生息数を合わせても 70 株ほどに減少していた。



今回、万博公園以外に群生地が見つかったことから、吹田市内全域に生育地が広がっていることが期待されるので、来年度以降の花の季節(4月)が楽しみである。

ガマ科コガマは大阪府レッドリストで準絶滅危惧(VU)にリストされている野草、吹田市では、これまで記録されていなかった。しかし最近、川畑清美が、山田北コーナン東側用水路で、コガマだけでなく、ヒメガマ・ガマと合わせたガマ3種が群生していることを、2020年に発見していたことがわかった。

①ガマ3種群生地、再発見のきっかけ

8/8 SSKK 大木 LINE に、「コーナン千里山田店のガマ3種の花が咲いた」と、ちゃちゃさん(=川畑清美)が投稿された。コガマは上記の通り、大阪府準絶滅危惧種であり、吹田市で確認されていなかったことから、8/9には武田義明先生、尾方がそれぞれ現地を確認され、両氏ともコガマに間違いなしと、報告された。



②ガマ3種群生地の今昔マップ(図①)

2021/10、檜田清治氏が川畑の案内で現地を確認し、生育地は上流の濁池から続いている昔からの水路と推定された。

平は今昔マップ(図①)で明治年代と最新、更に昭和年代(吹田市 2500 分の一地図)を比較し、現在のコーナン敷地は、明治年代は水田だったが、昭和年代はゴルフセンターであることがわかった。

ガマ3種が生育している水路は、檜田の推定の通り、北側にあった濁池(現在は保育園)から、水田東側山地との境界の湧き水も集めており、平地が「水田→ゴルフセンター→コーナン」と変遷したものの東側に水路が残され、水の枯れることもなかったことから、ガマ3種がこの水路周辺で生き続けたと思われる。

↑図① 今昔マップ 左 1908年 右 地理院地図



↑図② ガマ(川畑) ヒメガマ(尾方) コガマ(尾方)

③ガマ3種の花穂と葉の比較(図②、図③)

これまでガマに3種あることを意識せずに来たことから、3種の花穂と葉を並べてみた。図②は3種の花穂を並べたが、長さ・太さともガマ>ヒメガマ>コガマの順であった。また図③は3種の葉を比較したが、ガマの葉が最も幅広で、ヒメガマ>コガマの順であった。

吹田市内に、コガマが生育していて、3種のガマが群生している所はないので、この水路をいつまでも残してもらえるよう、地主の「コーナン」さんに説明し、お願いしておく必要がある。

↓図③ ガマ ヒメガマ コガマ(平)



北千里の希少植物(観察+調査会)

内容 北千里の草原ではツリガネニンジンの紫、吾亦紅(われもあか)と主張するワレモコウが満開となっている。絶滅危惧種もアイナエ・コケオトギリなどの小さい花、そしてイヌセンブリ調査など、秋の花を楽しむ。

日時: 10月12日(木)9:30~12:00頃
集合: 阪急北千里駅改札口
持ち物: 野草図鑑、筆記具、あればルーペ。
参加費: 会員 200円、非会員 300円
担当: 平 軍二、尾方義雄
申込: 電話 090-6901-1425(平)、メール g-hira@nifty.com)
カラー資料を準備すること、雨天開催日変更連絡のため、必ず申し込んでください。

生活環境委員会
小田信子

環境会議の エコ・クッキング③

シリーズの3回目です。今回から、「エコ・クッキング」のプログラムに沿ってポイントとなる項目を紹介していきます。

●エコ・クッキング Better Best

私たちの周りには、食に関する多くの情報があり、そこから私たちは選択していくこととなります。そこで場面ごとの行動について「エコ・クッキング Better Best」(次ページ)という表を作りました。「こうであらねばならない」ではなく、より良いもの、より良い行動を自ら選びましょう。

最初は食の安全に関する項目です。野菜・果物などでは栽培方法で農薬や化学肥料の使用の有無などです。減農薬・減化学肥料か、無農薬・無化学肥料かなど、様々です。農薬には散布する時に直接障害が出るものがあります。最近是有機栽培・減農薬などと表示してあります。もちろん無表示のものも多いですが、それらは普通に農薬や化学肥料を使っていると思ってください。それでも農家の人たちは気候変動で苦労しているのです。

さらに安全面では添加物があります。発色剤・甘味料・合成着色料・保存料・防カビ剤などなどでは、発ガン性、うつ症状、不妊症などの障害を起こすものがあります。どの添加物にはどのような危険があるのか、今ではネットで検索ができて

す。食品の成分表をよく読みしっかり考えましょう。詳しくは後の筆者に譲ります。

マイバックは今では普通の事、でも、食品の包装に使われる石油由来のものが減りませんね。個包装されているものがほとんどになっているお菓子類、魚肉類が載っているトレイなど、過剰包装は避けたいものです。プラスチック類の再生と称して輸出し、そのまま海洋汚染のもとにもなっているものが多いようですから。マイクロプラスチックは海洋生物に被害が及んでいます。今や魚の内臓や人間の血液中から検出される例があるとの報告さえあります。

さて、食に限らず生活するのに必要なすべてのものに関わる省エネの考え方があります。フードマイレージという言葉があります。物の重量×距離で表します。数字が大きくなるほど輸送にかかるエネルギーが増えて、多くのCO₂(二酸化炭素)やNOx(窒素酸化物)が排出されているのです。遠方から輸送されたものより、近隣都道府県からのものがフードマイレージの数は少ないのです。最近では地産地消という言葉で簡単に表現することが増えたように思います。さあ、皆さんどうします? 賢い選択ができるようになりたいものです。
(次号へつづく)

夏休み 森のクラフト 8/20(日) 浜屋敷 ～自然と遊ぼう 作ってみよう～

夏休み中の子どもたち向けのイベントとして、浜屋敷との共催で「森のクラフト」を開催しました。子どもたちの創造と想像の翼をいっぱいひろげられるようおとなたちはちょっとだけサポートしました。

いつも子どもたちの作品はおとなの想像を超えています。

今年もすてきな作品ができました!!

参加者は午前12名、午後14名。スタッフ9人。

材料を集めてくださった方も。みなさん、ありがとうございました!(報告:喜田)



エコ・クッキング

Better Best

環境に配慮した暮らし方

場面	現状	Better	Best
■ 購入：産地はどこか・安全か・旬のものか・容器はリユースできるか・ごみにならないか			
食材	外国産	国内産	地場
	一般栽培	減農薬 減化学肥料	無農薬 無化学肥料
	季節はずれのもの		旬のもの
	添加物の多いもの	少ないもの	無添加のもの
道具	使い捨てるもの		長く使えるもの
	化学物質		自然素材
	エネルギー消費が大きいもの		エネルギー消費が少ないもの
包装など	過剰包装	簡易包装	無包装・容器持参
	ペットボトル	ワンウェイびん	リユースびん
	レジ袋をもらう		マイバッグを持参する
	買いだめする		買いすぎない
■ 保存：省エネルギーか・食品にあった保存の方法か・ごみにならないか			
冷蔵庫の使い方	詰め込む		詰め込みすぎない*1
	雑然		整理整頓
	ドアを開ける時間=長		短=さっと閉じる
	ラップを使う		皿などでふたをする
■ 調理：省エネルギーか・食材を最大限利用しているか			
水の使い方	水の量は全開にする		エンピツの太さにする
調理の仕方	洗ってから皮をむく		洗う前に皮をむく*2
	煮こむ		保温調理をする
ガスの使い方	全開にする		鍋底から炎がはみ出さないようにする
■ あと片付け：水を使いすぎているか・洗剤を使いすぎているか			
食器洗い	そのまま洗う		ふき取ってから洗う
	合成洗剤で洗う	石けんで洗う	水で洗う
■ 廃棄：ごみにするか・ごみにしないか			
生ごみ	そのまま捨てる	乾かして捨てる	土に埋めたり コンポストを利用して堆肥にする
とぎ汁	捨てる	洗い物などに再利用する	土に返す
道具など	捨てる	再利用する フリーマーケットに出す	不要なものは買わない 修理して使い続ける*3

*1. 冷凍庫はきちんと詰める

*2. 捨てる皮が水気で重くならないようにする。

*3. 環境の3R+1R

作成：NPO法人 すいた市民環境会議

和歌山県田辺市 天神崎を訪ねて

～日本ナショナル・トラスト発祥の地～

理事 中村 小夜子

和歌山県田辺市の田辺湾の北側に天神崎という岬があります。そこは日和山を中心とする緑豊かな丘陵部と干潮時に水面から顔を出す岩礁で形成されています。その天神崎に10年ぶりに行ってきました。

日和山へも登りましたが、標高は35メートルと低く、道は整備されており私でも容易に頂上へ立つことができました。頂上は360度の展望で田辺湾を一望に見晴らせ、10年前と少しも変わらない自然がいっぱいの美しい景観を見ることができました。



天神崎 日本ナショナル・トラスト発祥の地



天神崎 風景

動植物の宝庫といわれる『天神崎』に昭和49年にこの場所を別荘地として開発する計画が持ち上がり、これに端を発して、ナショナル・トラスト運動が起こったとのこと。

市街地に近接しているにもかかわらず、豊かな自然が残されていてさまざまな陸の動植物と海の動植物が岩礁を挟んで一緒に見られ観察するのに最適なところでした。

岩礁の大部分は大潮の満潮時にはほとんど水面下に隠れてしまい、干潮時には姿を現します。そのため岩の上にはさまざまな生き物を見ることができます。



天神崎 磯風景(満潮時)



天神崎 磯風景(干潮時)

このような自然を守ろうと、昭和49年に『天神崎の自然を大切にする会』が結成され、以降も、土地の取得などに取り組み、それは50年後の現在も続いているとのこと。

この、ナショナル・トラスト運動により、天神崎はいまも昔と変わらない豊かな生態系が守られているのだと思います。この先もずっと自然がいっぱいの天神崎であってほしいと思いました。

雑記 ; 奮起一番

元理事 田中隆三

お久しぶりです!! 環境会議の理事を退いて早や数年、その間 コロナ騒動で社会・経済活動も制約され、人間の無力を痛感させられました。多分に漏れず昨年私も 11 日間の強制隔離入院を体験し、すっかり老いが進行しました。それはさておき 妙なきっかけで筆を執ることになったことご容赦ください。

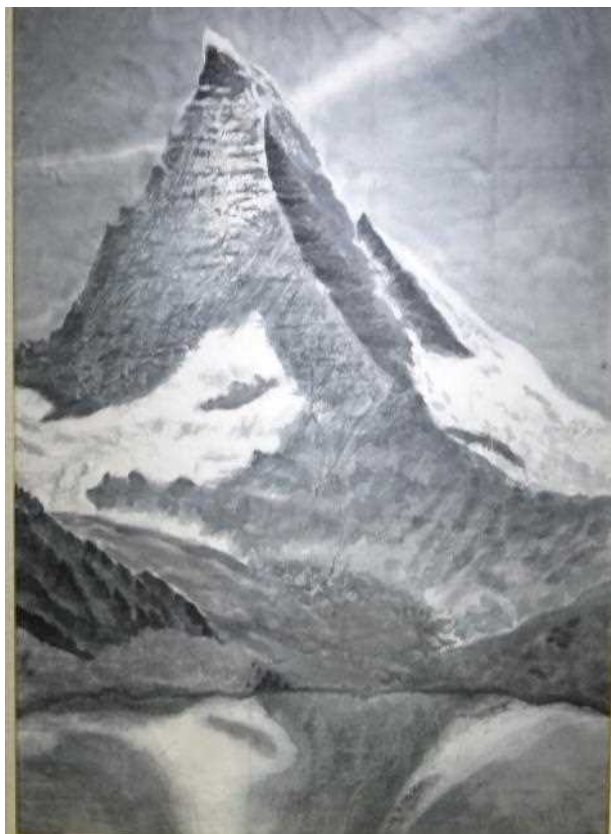
私 現役時高速道路・街路整備などの計画・設計を専門にしてきました。この段階で完成予想図を画の達人な人に画いて貰っていましたが、偉そうに注文ばかりつけていました。

70 歳退職時の選択肢の一つとして家で一人で出来るもの、自責の念もあって、**自分の思いを自分で画いてみよう**と奮起、円山町の水墨画の師匠に教えを乞うことにしました。それまで小学校の図画の経験しかなかったのに大変身。これには家族・友人もびっくり半信半疑!! 始めてびっくり、墨と筆を執って素晴らしい画を描く人がなんと多いことか。

墨も黒・青・茶色、筆も日本画用、墨色の濃淡、筆跡の擦れ・ぼかしなどを駆使した表現法、実に多彩であり、その上 和紙により墨の吸込み方が異なり、未だに道半ばの**技**である。師匠曰く“やってみな”、“やってみなくちゃー”の連発、俺にはもう時間がないのに!!!

こんな日々の繰り返しで、最初の数年間市の美術展に応募していましたが、三年前から画仲間の美術展に応募するようになり、日本南画院に応募した作品が審査員の目に留まり、ここに紹介することになった次第です。

十年一昔といいますが、十年余経てやっと画人の仲間入りが出来た感がしている今日この頃です。



【勇 姿】 2023 年日本南画院展 90×120

今年、目に留まった画が左のマッターホルンを画いた物で、二十数年前に訪れた写真等を参考に作成しました。又右下の画は二十年前に訪れたカデイソロッキーの氷河を描いてみました。

環境会議に関わっていた時の意識は失っていませんよ。 効果あるかな？

気候変動が著しい中、皆さまの活動が人々に浸透する事を念じています。



【後退する氷河】 2022 年日本南画院展 120×90

日本南画院展のホームページから作品を見ることができます。

「第 63 回 日本南画院展 第 1 部 作品展示一覧」の解説文の右下 [詳細](#) をクリックすると、名前が「あいうえお順」で表示されます。

「田中隆三 (たなかりゅうぞう)」で探していただき、画題をクリックすると作品画像がご覧いただけます。

知床あれこれ

4年ぶりの知床自然教室

理事 小田忠文

全国から集った小学4年から高校3年までの生徒がヒグマの生息地に入り込んでキャンプ生活をする知床自然教室は1980年から40年間おこなわれていました。この3年間は開催できず4年ぶりにこの夏、第41回知床自然教室が開かれました。

まだコロナの余波も心配されることもあって今年は人数制限をして子ども33人+大人15人と通常の3分の2の規模で開かれました。小学生全員を含め33人のうち26人が初参加というメンバーでした。ふだんはYoutubeやゲームざんまいの子どもたちが電子音のない一週間の生活が始まります。スマホは帰りに目的地の空港につくまでは電源を入れれないという約束です。家族は心配しているでしょうが、病院に運ぶような病気や怪我がないかぎり連絡しません。帰宅した子どもの口からキャンプの様子を聞くという親子の対話こそ大切だと主催者は考えているからです。

スマホがない一週間で、都会に戻るとほとんど不可能になる年齢の違う友だちとの交流の経験もしてもらいます。初日に33人を6~7人ずつ5つの班に分け、各班には大学生のリーダーの他に二人の大人が入ります。2日間、町の体育館で宿泊します。初日の夕食はさっそく各班屋外で自炊です。

翌日は海の日と称して知床の入り口のシンボルとして有名なチャシコツ岬(通称、亀岩)の磯で海の生き物を観察しました。



「五感で自然を感じる」とはよく耳にしますが、今回はこれを実践しました。班ごとに磯の一か所でしゃがんで動かさず声を出さず、同じ姿勢で5分間じっとしてみました。遠くの波の音、鳥の声、風が頬を伝っていく感じも味わえました。

なにより目の前の潮だまり(タイドプール)の中で、魚やヤドカリやウニ、貝類が動き出すのが見られました。私たちがズカズカと潮だまりに来たときにはじっと身をひそめていた多くの生き物が本来の姿を見せてくれました。たった5分間じっとしてただけですばらしい光景を見ることができました。生き物がたくさんいることを知ってから、何種類の生き物を集められるか、班ごとの競争をしました。その後、体育館まで歩いて帰りました。

三日目はキャンプ地まで約5kmの道のりを歩いて行きます。目的地は大正から昭和30年代まで開拓農家の人たちが開墾した場所です。



森に入ると各自が焚き付け用の枯れた枝を拾って歩きます。現地に到着するとまずお昼ごはんのための準備が始まります。日よけのテントを張って、かまどを掘って、見えないところにトイレも掘ります。

落ち着いたら食材を切る人、火を起こして安定した火力を保つ人、足りない燃料を集めに行く人などさっそく班の中での分担作業が始まります。

現地では寝る場所、食べる場所、食器保管の場所が互いに50m以上離れています。食材を運んでくるワゴン車で、食後に出たごみを現場から運び出します。寝る場所、つまりテントの中にはお菓子など一切の食品は持ち込み禁止です。夜中にヒグマが来るようでは大惨事になります。念のためテントの周囲は電気牧柵で囲まれています。まさにここはヒグマの生活圏の真ん中であって、そこにヒトがお邪魔している関係になります。水は川の水をろ過したものをつかいます。



食事は全部食べ、食べ物は一切残さない。小学生が余した食事は上級生や大人が食べる。食器は紙で拭いて紙やゴミは回収して車で町に運びだします。ヒグマが興味を持つ食べ物の匂いを残さないためです。

今年は夜になると雲が多くなってせっかくの知床で満天の星を眺めることはできませんでした。でも同時に人工衛星3つがそれぞれ勝手な方向に動いているのを大勢が確認しました。雲が切れると信じられないほどの星が見えるのですがほんの数分間のできごとでした。



翌日は知床原生林の中を流れる川の河畔林を歩き、川を歩いてわたり水の冷たさを実感。川の中にシマフクロウの羽をみつけた子どもがいました。川を渡って対岸を遡上してカツラの大木を見ました。このあたりのカツラの木は若いときに幹が積雪で折れるので、たくさんの株立をした大木になるそうです。

カツラの大木近くには新しい若木が行列して生えている巨大な倒木の幹がありました。倒木更新といいます。原生林では大木が寿命を迎えたり災害で倒れると、そのすき間に新しい生命が生まれてくるという命の循環を子どもたちは実感したと

の感想が多く聞かれました。



キャンプを終える最後の夜は、キャンプファイヤーをしました。初めてリーダーをやった大学生たちも最後の夜には子どもたちに頼られる存在となり、彼らにとっても人生の大きな収穫があったとおもわれます。そして子どもたちの思い出は確実なものになったことでしょう。



初めて出会った開校式では不安いっぱい顔つきをしていた初参加の小学生たちは、これが同じ人かと思えるほど明るく活発になりました。

一週間、スマホがなくても生きていける、いやむしろスマホがなかったからこそ同学年のみならず年齢差を超えた友だちと力をあわせてキャンプ生活をし、森を歩いたこの経験はゲームや Youtube からでは得られないものだったでしょう。でも今ごろはまたスマホに浸った生活に戻っているのかもしれない。また来年来てくれるとうれしいです。

若人と付き合っただけ疲れは感じましたが心地よい疲れでした。星が見られることが少なく、私が星座の説明をしようと用意したレーザーポインターの出番は次回までおあずけになりました。

~~ 寄付のお礼 ~~

会員会計 小田信子

2023年5月11日から2023年8月24日の間に多くの方々から74,000円のご寄付を頂戴いたしました。心からお礼を申し上げます。今年度もご支援をお願いいたします。
高木千鶴 川畑清美 牧野展元 筏隆臣 村井弘二 大橋文江 西川整子 檜田清治 中道春樹
青木タミコ 茶園征也 金子誠一 上田万吉 伊藤昌一 平田敏 田中隆三 李道子 廣瀬貞雄
越智清光 岸元 塩谷和久 岩溪恭子 草野弘靖 医)とくだクリニック (順不同)
以上23名と法人1件でした。ありがとうございました。

わたしたちの暮らしとエネルギーを考える

『原発をとめた裁判長そして原発をとめる農家たち』
上映会+ワークショップ

頻発する地震に原発は耐えられるのか。わたしたちの暮らしとエネルギーを考える。

開催日:2023年11月26日(日) 14:00~16:30

開催場所:千里市民センター大ホール(千里ニュータウンプラザ内)※

定員:150人

参加費:1000円

22歳以下無料 (座席確保のため「無料チケット」をお申込みください)

申し込み:下記のいずれかの方法でお申し込みください。

9月10日から販売開始です。

← QRコード(peatix)でチケットをお買い求めください。

またはメールでお名前・電話番号をお知らせください。

k-kaigi@hotmail.co.jp

会員の方は電話でも受け付けます。

090-8375-0647(事務局)

友人・知人
をお誘い
ください

主催:NPO法人 すいた市民環境会議

※この会場はすべての照明が消えない仕様となっています。

映画館上映とは上映環境が異なることをご了承ください。

●映画上映後 **ワークショップ**を行います。

参加ご希望の方は

「映画チケット(一般)+ワークショップ参加券」をお申込みください。

【令和5年度吹田市市民公益活動促進補助金事業】

理事 岡本 智子



13:30	開場
14:00	上映開始
15:30	映画終了 (10分休憩)
15:40	ワークショップ (参加者同士グループでの意見交換をします) ・「わたしのきもち」 (シートを使って気持ちをシェアします) ・原発停止をめぐる意見 (様々な意見を読み比べます) ・大阪にいる私たちが今できることを考えます
16:30	終了

プログラム

地球沸騰化時代 到来!

理事 喜田久美子

国連のグテーレス事務総長は7月27日、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が到来した」と危機感を訴えました。その言葉を、実感をともなって受けとった方は少なくないでしょう。

世界各地で自然災害が多発しています。地球温暖化は確実に進行している・・・環境会議は、温暖化に対応してさまざまな活動を展開してきましたが、まだまだです。会報の今号にも下記のように温暖化に触れた記事がたくさんあります。各委員会活動やイベントなどに、ぜひご参加を! いっしょに考え行動しましょう!

- ①P2「春夏秋冬」会長コラム。今号では永久凍土から覚醒するかもしれない未知の脅威について。
- ②P3「SES ニュース」2006年度設置の古江台中学校ソーラーと2016年度設置のぷくぷくソーラーの報告を掲載しています。市民共同発電所、もう一基作りたいものです。
- ③P4.5「いきもの委員会ニュース」希少種の発見について。植物に温暖化の影響はどのような形で現れるのでしょうか。
- ④P6.7「エコ・クッキングシリーズ3」Better Best 表で食に関する行動を振り返ってみませんか。
- ⑤P9「奮起一番」田中元理事が紹介された南面の1枚は「後退する氷河」。カナディアンロッキーの氷河とのことです。
- ⑥P12「映画+ワークショップ」多くの方のご参加をねがっています。ご家族友人知人をお誘いください。

●すいたクールアースウィーク

当会も参加しているアジェンダ21すいたによる「すいたクールアースウィーク」が9/22(金)から10/9(月・祝)に開催されます。ストップ地球温暖化がテーマ。吹田市内の団体や企業が趣旨に賛同してイベントや行動を計画しています。

詳細はこちら

イベントのひとつを
ご案内しましょう。



すいた
ムーンライトコンサート

9/29(金)18:30~20:30 江坂公園
太陽光発電の電気を使ったコンサート。月明りの下、秋の夜長に音楽を楽しみましょう。
雨天時は10/6(金)に順延。
問合せ:アジェンダ21すいた
06-6384-1782